犬型ロボット 高齢者に癒やし

弟子屈の老人ホームで活躍

イヌ型ロボットと戯れる入所者。愛らしい仕草に思わず笑みがこぼれる

【弟子屈】川湯温泉にある有料老人ホーム「森の家しらかば」（入所者29人）で、イヌ型ロボットが高齢者の心を和ませている。前庭の飼い犬が1年前に死んだこともあり、入所者の寂しさを紛らわすため、半年余り前に譲り受けた。癒やし効果は大きく、ロボット犬「なな」を通じて互いの交流機会も増加。みんなが集まる食事時には自然と笑顔が広がり、今や施設に欠かせない人気者になっている。（戸田英吾）

「ななちゃんおいで」「歌ってみて」。明るい日差しに包まれた施設の食堂に楽しげな声がこだまする。輪の中心で愛想を振りまくのは、ソニー製イヌ型ロボット「ａｉｂｏ」（アイボ）。温もりを感じさせる丸みを帯びた体型、生命感あふれる愛らしい仕草で入所者をすっかり魅了した。皆が食事で集まる朝、昼、夕に姿を現し、頭や背中をなでると本物の犬のように喜んでみせる。

外で飼っていたラブラドールレトリバーとは窓越しの触れ合いだったが、今は気軽にスキンシップを楽しめる。気落ちしていた人も明るさを取り戻し、ロボット犬は先住犬の代役を立派に果たした。動物好きの河原敏江さん（75）は「名前を呼んだらそばに来てくれる。とにかくかわいい」とニッコリ。認知症の入所者が聞き分けなく「家に帰りたい」と言い出した際にも「なな」を手渡すと、気持ちがすぐ和らいだ。癒やし効果は絶大で、入所者だけでなく職員も少なからぬ恩恵を受けているという。

「なな」の元の飼い主は、川湯温泉街で宿泊施設を経営する今井善昭さんの母親、信子さん＝滋賀県大津市在住＝（89）。犬好きな一人暮らしの母が寂しがらぬよう、誕生日にプレゼントした。ａｉｂｏ開発部門に在籍経験がある今井さんの長男、淳南さんがロボット犬の癒やし効果を熟知していたのも理由の一つ。ロボットが送信する写真で母親の健康状態を確認するなど、見守り役も果たした。長期入院でやむなく手放すことになり、今井さんと交流のあった同施設に寄贈を申し出た。

死んだ犬とロボット犬の名前はくしくも同じ「なな」。不思議な縁に導かれた今井さんは「大勢の入所者にかわいがってもらい、里子に出して本当によかった」と〝愛犬〟の活躍に目を細めている。